

令和3年度 第3回宇治市水道事業経営審議会 議事録

会議名	令和3年度 第3回 宇治市水道事業経営審議会
日時	令和4年1月26日(水) 午後13時00分～午後15時00分
場所	宇治市役所 議会棟3階 第3委員会室
出席者	<p>(委員) 西垣会長 向畑副会長 伊木委員 岐部委員 清水委員 島津委員 向山委員 保田委員 山崎委員 横川委員</p> <p>(事務局) 山田上下水道部長 蒲原上下水道部副部長 中村上下水道部技術参事 津田工務課長 塚本営業課長 藤井配水課長 藤井水管理センター場長 野口水道総務課副課長 深澤営業課副課長 中井工務課係長 藤川水道総務課主任 多田水道総務課主任</p> <p>(傍聴者) 1名</p>
<p>1 開会</p> <p>2 議事 専門部会からの報告・審議</p> <p>「収支改善施策について」</p> <p>事務局より説明が行われた。</p> <p>質疑応答</p> <p>(委員) 現役世代と将来世代の負担の在り方を議論するために他の事業体を参考にしたのは良いと思う。企業債残高、借金の残高と給水収益の比率について、どうであったか。</p> <p>(事務局) 企業債残高から見る給水収益の割合を指標とした上で、宇治市の状況を見ている。現状、京都府内の給水の受水市町の状況下において、宇治市は平均的な位置にいる。今後、企業債を発行していくにつれ、その状況が悪化するので、指標の率を見ながら企業債発行していくよう、専門部会からご意見をいただいている。</p> <p>(会長) 低所得者向け料金のあり方について、一般的な福祉施策として一般会計から充当、補填等を検討いただくというのはどうか。</p> <p>(委員) 検討するのか。それとも要望するのか。</p> <p>(会長) 料金改定を踏まえて政策的に議論いただけると思う。事前に感触は掴んでいるか。</p> <p>(事務局) 現状、具体的には話されていない。答申を受けた上で、どう進めていくか検討する。</p> <p>(委員) 今までの議論を一般の方が知る機会、一般の方の意見を聞ける場が必要である。知っていただく中で、極力後回しではなく、早々に問題は解決した方が良い。</p> <p>(会長) 市の水道の状況や、市の水道部局で取り組む施策、今後の施設整備や料金のあり方など、市民の方々への広報にも取り組むという要望を、答申に書</p>	

き込むのはどうか。

(委員) 市民の方々に収支が赤字になっていくことを認識してもらえれば、水道料金の上昇もある程度納得していただけたらと思う。宇治市の水道事業の在り方を発信することは重要である。水道の使用量は、コロナ禍で家庭用の需要が増える一方で、事業用は少なくなっていると思うが、両方の増減が考慮されているか。

(事務局) 広報については、本年度の秋に、老朽管の工事写真や、人口減少に伴う水道料金の減少を示したグラフ等を示したものを全市民にポスティングしている。広報は引き続き取り組んでいく。全体の水道使用量としては、家庭用が8割を占める。家庭用の水量が少し増えると、全体としては大きな収入の増加となるので、事業用が減少しているが、全体の収入としては増えている。

(委員) 市政だよりを見たが、わかりやすく様子が書かれてあり、効果的だと思う。もっと色々な人に気付いてもらえるよう、どんどん発信してもらえるとありがたい。

(委員) 水道料金が17.1%に改定されるが、具体的な金額を確認したい。

(事務局) 一般家庭で20 m<sup>3</sup>程度使用すると、1か月で500円前後の増加となると考えている。

(会長) 水道料金について、人口減少に伴う水需要の減少と水道施設の更新費用によって、水道料金が高くなる傾向である。市民の方々には負担を強いることになるが、将来に向けて安心安全で、持続性の高い水道施設の維持は非常に重要である。コロナ禍での経済の状況も踏まえて、激変緩和措置を講じる、あるいは料金改定時期を考えることも同時に、審議会からお願いしたい。

(委員) 民間委託をすることで経費削減ができるのなら何故もっと早くしなかったのかと思う。不足額19億というのは、一般市民の生活感覚からすると実感として伝わりにくい。水と空気はタダという気持ちでいたが、これからは心して使わなければと感じた。しかし、収益を改善するためには、節水よりも使った方が良いのか。また、最近新聞等で報道されている、水道管塗料問題について、宇治市における影響を確認したい。広報については、一般市民が水道に対して、もう少し関心を持つようなものがあれば良い。

(会長) 現在、世界的に、SDGs つまり持続可能な将来のために何をすべきかという時代の中で、きれいな水を大量に安い値段で提供しているのは日本だけで、いかに恵まれた状況にあるのかということ。人口減少の中で、低廉で安心安全な水をどう提供していくかが課題である。水道施設の効率を

上げるため、京都府間では、効率的な規模で低廉に供給できる施設の統合について議論している。用水供給されている市町で連携体制がとれれば、将来の値上がりも抑えられるという試算をしている。そのような連携の検討も今後重要な問題となる。

(事務局) 広報は、市政だよりの中で、しっかり枠取りすることで、わずかだが経費を抑える工夫を行っている。水道事業に関するチラシのポスティングは引き続き行っていく。水の使用については、使えば使うほど、水道事業者の収入が増え、収支不足の改善に繋がる。一方、それぞれの家計があるので、生活に必要な部分と節水をする部分は、それぞれ判断いただければ良い。中・長期的なところまでは見通せないものの、トレンドをキャッチして、収支改善や業務効率化を考えていく。また、環境問題が叫ばれる中、地球規模で考えると水も循環の中の資源だと思うので、水を作るうえで、施設の老朽化が一番の問題である。水道管塗料の問題については、関係機関が詳細な調査を行っている。宇治市としても、使用しないよう調整している。

#### 答申案

会長より説明が行われ、答申案についての審議が行われた。

#### 質疑応答

(会長) どの市町も、今後、水道施設の更新投資が必要となる。さらには、今後の見込みの中で市町ごとの水道事業を運営していただくだけの人材確保が難しくなっている。これらの方向性から、府が所有する施設と市町村が所有する施設の中で、これからも活用できそうな施設は共同的に運営していく。人口減少の中で、施設が余るなどの無駄がないよう、人口規模に合わせた施設のコンパクト化を行い、低廉な水が供給できる施設規模を目指す、また、人材育成や人材確保の連携など議論を進めていく状況である。

(委員) 京都市と宇治市の連携においては、研修施設を設置し、普段の作業等のノウハウを共有するために周りの自治体の方に対して研修を行っている。また、緊急時に水の融通ができるよう、水道管の接続による連携も行っている。

(委員) 災害時に、ある程度の自己資金等をストックしておく必要がある。事業継続計画を作成し、それに向けた資金や対応を考えることを付け加えると良い。

(委員) 用途別から口径別に変えた時に、使用者間であまり格差がないよう、充分配慮して検討いただきたい。また、水需要の動向について、令和7年度に行う中間見直しでは実績を分析し、必要であれば、それ以降の水需要を見

直して検討いただきたい。

- (会 長) 口径別への移行について、検討事項の中に、大きな変化等に配慮するような形で記載している。感染症蔓延下での水需要の増加については十分注視する文言を入れる。
- (委 員) 広報について、最も良いのはトップからのメッセージである。市長から積極的に発信してもらうことが重要である。
- (委 員) 災害時対応について、過去の経費削減で給水車を1台売却とあるが、現在宇治市には給水車は何台あるのか。
- (事 務 局) 現在、給水車は3台である。
- (委 員) 災害時に、新たに1台予備として設置される計画はないのか。また、3台あれば充分か。
- (事 務 局) 現状、3台で対応できると考えている。
- (委 員) 他団体で給水車が必要となれば、宇治市から出動するのか。
- (事 務 局) 和歌山の水管橋事故の時も、宇治市は人材と給水車を派遣している。
- (会 長) 災害の区域が限られている場合、地域で連携して給水車を派遣しあうなど、なるべく経費を抑えつつ、災害時の安心安全を確保することを考えることが必要である。
- (委 員) 業務の民間委託について、有効的に行い、健全化を目指してほしい。
- (委 員) 市民サービスを低下させない、あるいはノウハウを失うことなく業者をコントロールしながら、経費の削減を図ることが必要。ノウハウや技術、経営の継承については、宇治市の水道力が落ちない形で、徐々に委託していくことが重要である。民間のメリット、デメリットを見極めながら、水道事業が危機管理に対応、また効率性を確認しながら進めると良い。

### 3 その他

事務局より、今後の答申の日程について説明が行われた。

### 4 閉会